

校長室だより

ふるさと大を愛し 夢を求めて挑戦し続ける 大路っ子プライドの育成
～ふるさと大の輝く太陽になろう～

丹波市立大路小学校
校長通信



令和5年6月号

『こども本の森 神戸』のコンセプトに学ぶ

皆さんは「こども本の森 神戸」をご存じですか？建築家の安藤忠雄さんが、子どもたちのために寄附されました。ルミナリエが行われていた（今年は復活するようですが）東遊園地に、夢の建物が誕生しました。とっってもうらやましく思う限りです。

『読書をする子は〇〇がすごい』（榎本弘明 著）の中でもこのことが述べられていました。安藤さんは「こどもは未来の宝。そしてこどもの心の成長のための一番の栄養が本です。…（中略）… これからの時代は変化が大きく、何が起ころかわかりません。どんな状況に直面しても、自分の頭で考え、未来を切り開いていく力が必要です。そのためにも、こども時代にたくさんの本を読み、様々な文化に触れ、知的体力を養っておくことが必要です」と説かれています。



私もここ数年、毎日本を読むようになり、読書の大切さを痛感するとともに、これまで本に親しんでこなかったことをとても後悔しています。（自分がやってきたことで、後悔したことはほとんどなかったのに）

大路の子どもたちにそんな後悔をしてもらいたくなくて、機会あるたびに本の話をしています。6月の学校朝会では、自分がどんな本を選ぶのか、私の本の選び方を話しました。まずは、題名を見て関心があるかを考えます。次は、本の帯を見て読んでみるかみないかの最終判断をします。さらに新しい本の選び方として、「紹介してもらった本を読む」ということを実践したいと思います。本校の先生に紹介してもらった本もこれからはどんどん読んでみたいと思います。他者が読んで面白かった本は、何らかの魅力があるはずで、自分の視点を変える意味でも大切かなと思っています。新しい世界に出合えることにワクワクしています。

「こどもの本の森」は、学校では図書室です。図書室が子どもたちにとってわくわくする出会いの場になるよう充実させていきたいです。

文責 畑中 啓太